

農業で未来を



千歳町船田
も 武 藤 とし 俊 文

私は、千歳町で水稻、肉用牛繁殖の複合経営を両親・妻の4人で行っています。

私が就農した当時は、若い後継者が市内にはいなかったように思えました。しかし最近では、牛の市場に行くたび、若い人たちが多く見かけるようになりました。

後継者不足が叫ばれている中、若者にとって魅力ある農業の確立、消費者のニーズに答えられる農作物の生産など、一歩進んだ農業経営に変えていかなければ・・・

どうか若い人達の声を聴いてほしい!!

子ども達の未来を考えると、人が生きていくのに必要な、食の安全や大切さを、身を持って学習したり体験できる場を増やしてみても、どうだろうか?

最近そんな事を考える年齢に、自分が近づいて来たのかなあと思っているんです。

みなさんは、どうでしょうか?

三重高校卒業式・閉校式 に出席して



犬飼町田原
こ 後 藤 とみ 富 子

42年ぶりに、わが母校三重高校の門をくぐる。106名の卒業式と106年の歴史に幕を降ろす閉校式に出席するために。

この日をわが胸に刻み、その時を共有したいとの思いで、卒業生の保護者、同窓生らで体育館はぎっしりと、埋まっている。

OBの演奏するなか、気恥ずかしそうに、この日を迎えた喜びを顔一杯にして入場してくる卒業生、拍手で迎える私たちも胸が熱くなる。

一人ひとり卒業証書をいただく姿に「頑張れよ!」とエールを送る。

続いて、閉校式となり、校旗返納の時は、皆のまなざしが校旗に集中して感慨深いものがあった。

校歌をこんなに思いを込めて歌ったのは、私だけではないと思います。

その後、校舎、グラウンドを友と見て回り、この学び舎とも本当にお別れかと思うと、閉校式の実感がわいてくる。

社会の変化、生徒数の減少でいろんな議論の末、三重総合高校が開校されました。

この高校も今年全学年揃い、本当のスタートを切れたと思います。

これから新たな歴史を一つ一つ築いて行ってほしいと思います。